



コスモスだより

【ニューストピックス】

低侵襲外科手術センター

下部消化管の 腹腔鏡下手術

腹腔鏡下手術に ICG 蛍光ナビゲーション導入！

【お知らせ】

イベントレポート

患者サロン「がん患者・家族懇話会」のご案内

緩和ケアフォーラムのご案内

創立80周年記念病院祭レポート

病院の理念 基本方針

地域住民を守る良質な医療の提供

1. 医療を通じ患者さんの喜びが自らの喜びになるような職業人をめざします。
2. 常に技術の研鑽に努め、高度な医療の提供により、病気の早期発見・治療の充実をめざします。
3. 患者さんの治療には、各々の職務を結集したチーム医療をめざします。
4. 地域の医療機関と連携を密にし、信頼される中核病院として急性期医療をめざします。

低侵襲外科手術センター

下部消化管の腹腔鏡下手術

2018年10月より、身体に優しい外科手術（内視鏡外科手術）をより安全に行い、より多くの手術に対応できるよう【低侵襲外科手術センター】がスタートしています。今回は、【低侵襲外科手術センター】の一翼である消化器外科 下部消化管（腸）の腹腔鏡下手術についてご紹介します。

低侵襲で身体への負担が少ない腹腔鏡下手術

腹腔鏡下手術は、お腹や脇腹に開けた小さな穴から、専用の内視鏡（カメラ）やマジックハンドのような鉗子などの手術器具を挿入して、モニターに映し出される体内の臓器や手術器具の画像を見ながら行う手術です。

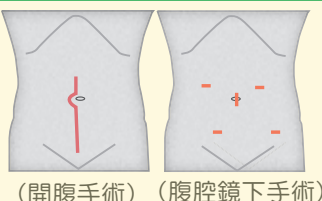
腹腔鏡下手術のメリット

傷が
小さい

出血が
少ない

癒着が
少ない

S状結腸切除術の創部（傷跡）例



※切除する範囲により、穴の位置や大きさは異なります。
※器具挿入の穴に加え、腸を取り出すため3～4cm程度の創が必要です。

●痛みが少なく回復が早い

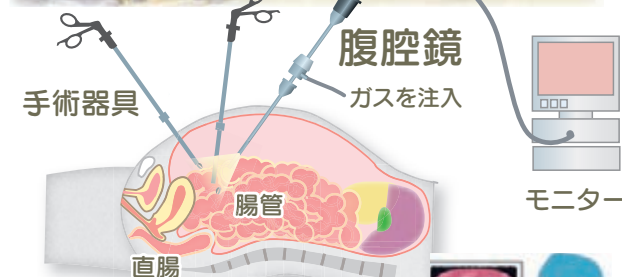
開腹手術に比べ皮膚や筋肉の切開が少なく、痛みや身体への負担が少ないのが大きなポイントです。そのため、翌日から食事と歩行を開始でき、早い回復につながります。

●早期退院・社会復帰ができる

リハビリも早期に開始でき、早期の退院・社会復帰が可能です。経済的な負担はもちろん精神的負担も軽減できます。

●癒着による合併症を軽減

手術後に組織が癒着すると、腹痛や腸閉塞が発生したり、複数回の手術を行う際には再手術の妨げとなる場合があります。腹腔鏡下手術では癒着が少ないため、こうした問題の発生を減らすことができます。



モニターに映された
画像を見ながら手術できる

●術部を拡大して見られる

腹腔鏡の画像をモニターに拡大して映すため、術部の細部を見ながら、繊細な手術を行うことができます。

骨盤の奥にある臓器は術者からは見えにくい位置にあります。カメラを患部の近くに差し込み細部まで見られる腹腔鏡下手術は、骨盤内臓器の手術にはとても有効です。

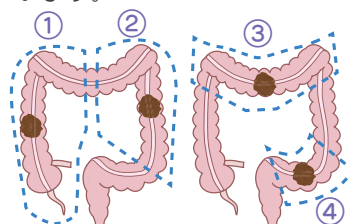
●スタッフが手術の状況を共有できる

スタッフ全員がモニターを見ることで、同一の術野を共有し、進行状況を把握することができます。

下部消化管での主な腹腔鏡下手術

結腸がん

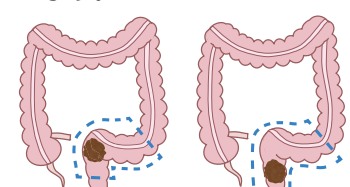
腸管に繋がる血管を切り離し、周囲にあるリンパ節なども同時に切除して、がんのある部位から10cmほど離れたところで腸管を切除します。腸管の切断・縫合は、腹部の創から腸管を引き出して行います。



- ①結腸右半側切除術
- ②結腸左半側切除術
- ③横行結腸切除術
- ④S状結腸切除術

直腸がん

直腸の周囲には排尿機能や性機能を調節する自律神経があるため、手術後の機能障害が最小限ですむよう、可能な限り自律神経を残す手術を行います。



低位前方切除術 直腸切断術

直腸切断術では、腸と肛門を一緒に切除し、腹部に人工肛門（ストーマ）を造設します。

その他

●虫垂切除術

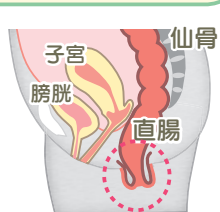
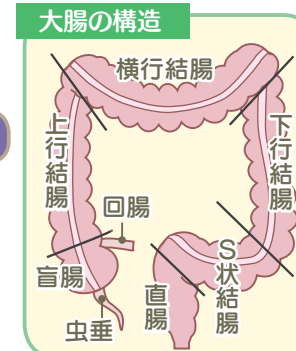
虫垂炎（一般的に盲腸と呼ばれる）の切除手術です。

●直腸脱手術

直腸脱は、肛門より外に直腸が脱出する病気で、高齢の女性に多く見られます。腹腔鏡で直腸を引き上げ、直腸を仙骨に固定します。

●腸管癒着剥離術 / 小腸切除術（悪性腫瘍以外）

主に腸閉塞の治療のために行う治療法です。腸閉塞の原因の中でも多いのは、開腹手術の後に起こる癒着です。腹壁に腸管が癒着し、腸管が狭窄や屈曲して内容物の流れが悪くなり詰まってしまうことで、腹痛や腹部膨満・嘔吐などが起こります。また、炎症や腫瘍で腸管が閉塞する場合があります。



腸管血流を見ることが安全な腸管吻合を！

ICG 蛍光ナビゲーション腹腔鏡システム導入

血流評価・リンパの流れの確認や診断など、幅広い分野で利用されている蛍光物質 ICG。

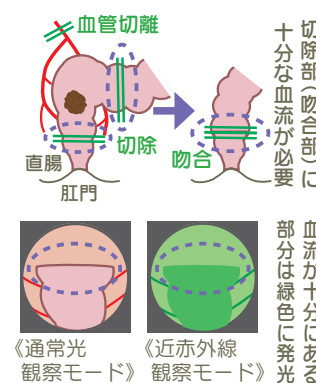
新たに、ICG 蛍光ナビゲーションシステムを内蔵した腹腔鏡を導入。

これまでは難しかった直腸側の腸管にも ICG による血流評価が可能になりました。

縫合不全の防止に有用な血流評価

大腸手術での重大な術後合併症の一つは縫合不全です。縫合不全が発生すると、内容物が腹腔内に流れ出て腹膜炎を発生し、入院期間も大幅に伸びてしまいます。縫合不全の大きな因子は、吻合部の血流不全です。ICG を使えば、近赤外線を照射することで血流を目で確認でき、血流不全による縫合不全を防ぐことができます。

近赤外線を照射する機能を持つ内視鏡が、新たに導入した ICG 蛍光ナビゲーション腹腔鏡です。



腹腔鏡 ICG の導入で直腸側の血流評価が容易に

腹腔鏡下手術では、腸管の切断・縫合のため腹部の創から腸管を引き出す際に、近赤外線カメラで ICG による血流評価を行ってききましたが、直腸側は体外に引き出せないため血流評価が困難でした。しかし、ICG 蛍光ナビゲーション腹腔鏡システムにより、体内から見て評価することが可能になりました。

ICG 蛍光ナビゲーション

蛍光物質や光感受性物質を体内に投与し、特定の波長の光を当てて発光する現象を医療に応用したのが**光力学診断**です。

ICG 蛍光ナビゲーションは、この光力学診断の一つ。蛍光物質 ICG（インドシアニングリーン）には、蛋白と結合し**近赤外線を当てると発光**する特性があります。発光の状態を見ることで、**病変や血管**などの構造の他、リンパの流れなどを**観察**することができます。

外科・消化器外科 下部消化管 医師紹介

◆ 奥山 正樹 ◆ チームで実現する患者さんに寄り添った医療の提供

今医療に求められているのは、生存期間の延長のような治療の成果だけでなく、高いQOL(生活の質)を維持することです。QOLという言葉が使われ始めてから随分と年月が経ちましたが、「患者さんにとっての高いQOLとは何か」を探ることは容易ではありません。同じ症状でも、年齢や生活背景、性格や価値観の違いから、治療に対する考え方も生活の何を重視するかも異なるからです。

当院では、2016年に消化器外科医・看護師・薬剤師・管理栄養士・医事課スタッフからなる「消化器がんチー

ム」を発足しました。お一人おひとりの患者さんに向き合い、「患者さんの生き方を尊重した治療とは何か」を考える。多くの視点で患者さんを見、必要なケアやサポートを必要な時に行う。そのために、多職種でのカンファレンスはもちろん、電子カルテのシステムを使用してメンバー同士のタイムリーな情報共有も行っています。

医療の質の向上に貢献するこの取組みが注目され、地方や全国の学会で発表する機会も増えてきました。これからも、「何のための治療なのか」を共に考え、チーム医療の向上に努めてまいります。

◆ 岡野 美穂 ◆ システムと技術を駆使し縫合不全ゼロを目指す

がん手術を行う上で重要なのは、がんの治療として過不足なく、且つ合併症のない手術を行うこと。これに向け我々医師は日々研鑽し、システムと技術を駆使して手術を行っています。縫合不全率の全国平均が約10%のなか、ここ3年の当院の縫合不全率は約4%。好成績を取っていますが、目指すのは縫合不全ゼロ！新たに導入したICG蛍光ナビゲーション腹腔鏡も活用し、技術の更なるブラッシュアップに努めてまいります。

大腸がんの手術で特徴的なのは、早期がんだけでなく、進行がんも腹腔鏡下で行えることです。開腹手術と腹腔鏡下手術では手術方法は異なりますが、手術の内容に変

わりはありません。リンパ節郭清も腸管の剥離も栄養血管の切断も腹腔鏡下で行います。癒着がある場合やがんによる腸閉塞が起こっている場合を除き、当院ではほぼ90%を腹腔鏡下で行っています。

腹腔鏡は、低侵襲で患者さんのメリットが大きい手術方法です。少しでも多くの患者さんに、縫合不全などの術後合併症がなく、術後のQOL(生活の質)が高い腹腔鏡手術ができるよう、チームの皆と取り組んでまいります。

◆ 谷崎 慶子 ◆ 腹腔鏡下手術に求められるチームワーク

腸の腹腔鏡下手術は、3名の医師がチームを組んで行います。1名は術者、1名はカメラを操作する者、1名は腸管を吊り上げるサポートです。この3名のチームワークが良くなければ質の良い手術はできません。腸管は場所や形が固定しておらず動いているため、サポートが腸の2ヶ所を掴んでピンと張って固定することで、メスを入れられるようになります。カメラは、術者とサポートの動きを読みながら的確に術野を照らす必要があります。当院の下部消化器外科医は3名。全ての手術に携わっています。

当院は約250床の中規模病院ですが、外科医として多くの症例を経験させていただき、地域中核病院としての責任の重さと、やりがいを実感する日々。ここでの研鑽を次の世代へ、目指すは実力を備えた技術認定医です。



診療局参与 兼
部長 兼 外来化学療法センター長
奥山 正樹
【資格】
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会
消化器がん外科治療認定医
日本大腸肛門病学会専門医・指導医
日本臨床腫瘍学会暫定指導医

部長
岡野 美穂
【資格】
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本がん治療認定機構がん治療認定医
消化器がん外科治療認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医
日本大腸肛門病学会専門医

副部長
谷崎 慶子
【資格】
日本外科学会専門医
日本消化器外科学会
専門医
消化器がん外科治療
認定医



第32回 市民健康まつり

令和元年 9月29日(日)
【場所】市立保健センター

市民健康まつりは、「健康について考える機会を得ることで、地域の健康づくりを積極的に推進する」を目的に開催され、当院は毎年コーナーを設けています。

● 乳がん自己検診講座

認定看護師による15分講座を4回実施。約50名参加いただきました。たくさんの質問もいただき、関心の高さがうかがえました。

● 手洗いチェックコーナー

多数の親子が参加し、きれいに手洗いができたかをチェック。洗い残ししやすい場所を確認されていました。

● 各種相談ブース(禁煙相談・総合看護相談・がん相談)
多くの方に、気軽にご相談いただきました。



リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2019 泉州かいづか

令和元年 10月26日(土)・27日(日)
【場所】貝塚市民の森(シェルシアター)

このイベントは、がん征圧を目指し、ともに歩き語らうことで生きる勇気と希望を生み出したいという目的で行われるチャリティ活動です。現在、世界約30ヶ国約4500カ所で開催され、日本では約50ヶ所で開催されます。当院は「大阪府がん診療拠点病院」の指定を受けており、毎年ボランティアで参加しています。

● 当院医師による医療講演

今年の医療講演は「がん患者・家族が医療者に伝えてくれること」と題して、当院緩和ケア専従医の川上寛明先生が、がん患者・家族との関わりの中で経験されたことをお話ししました。約30名の方が参加され、熱心に聞き入っておられました。



■ 患者サロン「がん患者・家族懇話会」のご案内

患者サロンは、がんと診断されたご本人やご家族が、毎回テーマを決め様々な悩みについて、語り合う交流の場です。患者サロンを通じて、がんとうまく付き合い、よりよく過ごすきっかけを見つけてください。多くの方のご参加をお待ちしております。

【テーマ】頭皮ケアのお話

【日 時】2月18日(火) 14:00～15:00

【場 所】市立貝塚病院 4階会議室 【費 用】無料(要予約)

【申込・お問い合わせ】入退院支援センター地域医療連携室 ☎072-422-5865

※参加はがんの患者様かそのご家族様に限らせていただきます

※参加いただく方は、個人情報やプライバシー保護にご配慮をお願いいたします

●日程・内容等はホームページでご確認ください

市立貝塚病院 患者サロン

検索

入退室
自由



2020年
2月18日
(火)

地域連携ニュース

■ 緩和ケアフォーラムのご案内(医療従事者対象)

「緩和ケアフォーラム」を下記のとおり実施いたします。多数のご参加お待ちしております。

【内 容】講演『緩和ケアについて(仮題)』

【講 師】近畿大学病院 がんセンター

緩和ケアセンター・腫瘍内科兼務 講師 吉田 健史 先生

【日 時】3月6日(金) 18:00～予定 【場 所】市立貝塚病院 7階講義室

【申込・お問い合わせ】入退院支援センター地域医療連携室 ☎072-422-5865

2020年
3月6日
(金)

市立貝塚病院は
令和元年9月で

創立80周年

市立貝塚病院は、昭和14年9月25日に町立貝塚病院として設立され、病床数27床から歴史が始まりました。地域の医療機関の皆様にご支援いただき、おかげさまで、昨年9月で創立80周年を迎えることができました。

創立80周年記念 第23回 病院祭 ～病院祭ふれ愛デー 感謝とともに地域とともに～

令和元年12月1日（日）【場所】市立貝塚病院

《協賛》
株式会社明治
株式会社国華園
株式会社塚本

今回は、創立80周年記念の特別な病院祭。恒例のイベントに加えどんな催しをしようかと、病院祭実行委員会を中心に職員で意見を出し合い、手作りで企画しました。「いつもと違った記念品をプレゼントしよう」「地元のお店に模擬店を出してもらおう」「乳がん検診をもっと知って欲しいから、ドクターがマンモグラフィ画像の解説をするのは？」「簡単にできるストレッチ体操とかもいいね」「ナース服を着てつげさんと記念写真」「子どもを対象に病院の職業体験は？」そんなアイデアの一つひとつを形にしていきました。

なかでも華を添えていただいたのは、貝塚市出身・女子硬式野球の川端友紀選手と、兄・東京ヤクルトスワローズ川端慎吾選手です。友紀選手はパネルディスカッションの特別ゲストに、慎吾選手には抽選会に飛び入りで参加していただきました。両選手からグッズを提供していただき、川端賞を設けました。

病院祭当日は天候にも恵まれ、過去最高の約1,200名が来場。協賛企業を始め多くの方々のご協力で賑やかに開催できましたこと、あらためて御礼申し上げます。今後も「感謝とともに地域とともに」より良い病院を目指して、職員一同努めてまいります。

● 創立80周年記念式典

7階講義室にて創立80周年記念式典を開催。貝塚市医師会をはじめ関係機関の方々やOB職員が列席されました。



頂戴した多くの祝辞の中には、初代院長の孫にあたる元サッカー日本代表監督の岡田武史さんからのメッセージもあり、歴史とご縁を感じる一幕となりました。また、病院の歴史を振り返るスライドが流されたときには、当時を懐かしむ声も。「地域住民を守る」という役割を果たしながら、歴史を繋いでいくことの重責をあらためて感じました。

● 病院ボランティア「こすもす会」 結成10周年に感謝状贈呈

平成21年9月に結成し10周年を迎えた「こすもす会」

の方々に、今までの活動への感謝を表すため、記念式典で感謝状を贈呈しました。

「こすもす会」では、患者さんの受付の案内や庭園のお手入れのほか、職員とも協力しながらクリスマス会などの行事も開催しています。

● 車椅子寄贈に感謝状贈呈

市内在住でうなぎ料理店（うなぎ）を営む川出一二三様から車椅子5台を寄贈していただき、開会式で感謝状を贈呈しました。



《設立当初の病院》



新年明けましておめでとうございます



創立80周年を迎えて 院長 今本 治彦



市立貝塚病院は、昨年9月に創立80周年を迎えることができました。これもひとえに地域の皆様並びに関係各機関の方々のご支援の賜物と深く感謝しています。

昨今、医療を取り巻く環境は、研修医制度の影響による医師不足や地域偏在、医療の高度化、医療制度の変化などにより大きく変わりました。当院はその変化のなか、がん医療を柱にして、乳がん高度検診・治療センターや婦人科腫瘍センター、化学療法センター、緩和ケア病棟を開設し、「がんのトータルケア」に努めてまいりました。さらにより安心・安全な医療を目指して、低侵襲外科手術センター、入退院支援センターを開設し、医療の質の向上を図っております。今後、さらなる少子高齢化が進むなかで、地域の皆様のニーズにお応えできるよう、当院に求められる役割を果たしていきたいと考えています。

12月1日に行いました創立80周年記念病院祭には、たくさんの方々のご協力のもと、約1,200人という多くの方にご来院いただき、盛大に行う事ができました。心より御礼申し上げますとともに、予想以上のご参加に、当院に対する皆様のご期待に身の引き締まる思いです。今後、より一層「地域の皆様に愛され支援される病院」づくりを目指して、職員一同、頑張ってまいります。引き続き、皆様のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 川端友紀選手とパネルディスカッション

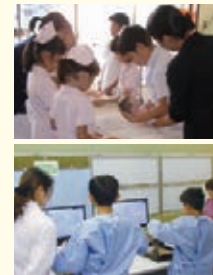
今回の医療講演会は、「女性の社会進出を医療の面から考える」をテーマに2部構成です。



第1部は、産婦人科 直居医師と乳腺外科 大城医師による医療講演。第2部は「女性の活躍する社会と健康維持」をテーマに、貝塚市出身の女子硬式野球 川端友紀選手をお招きしたパネルディスカッションです。指導者としての立場やワールドカップ出場経験を踏まえて、女性が活躍できる職場づくりについてや、女子野球選手の普及・育成について、体調管理についてなど、第一線で活躍し続ける川端友紀選手ならではの視点でのお話があり、楽しみなごやかな講演会となりました。

● 小・中学生向けのお仕事体験ツアー

例年は高校生対象に手術体験を行っていますが、今回は対象を市内の小中学生に変え、看護師・医師・放射線技師・検査技師のお仕事体験ツアーを開催。年齢と内容別に3コースに分け、事前募集しました。



146名の応募の中から抽選で36名が参加。包帯巻きに赤ちゃんの沐浴やストレッチャー搬送、腹腔鏡体験やX線撮影体験・超音波画像診断装置体験など、ナース服や白衣に身を包み、一所懸命に取り組んでいました。

● 多くの観客で熱気に包まれた ロビーコンサート

午後からは、エントランスホールいっぱいの観客の中、「貝塚市立第二中学校」による迫力ある和太鼓や華やかな箏の演奏、「貝塚市立第一中学校」合唱部による心に響く合唱が披露されました。トリを取るのには当院のOB職員で結成された「ギターマンドリンクラブ」によるぬくもりのある合奏。最後の曲「ふるさと」を会場の全員で歌い、温かな雰囲気になりました。



● 豪華な景品とサプライズゲストに大歓声！

コンサートの後は、お待ちかねの抽選会。今回は、創立80周年記念賞や川端賞を設けいつもより豪華な景品に！川端賞では、川端友紀選手と共に川端慎吾選手がサプライズ登場！お二人そろっての貴重な登場に、兄妹ならではの楽しいお話もお伺いできました。両選手本人がクジを引いて景品を当選者に手渡し、一層大きな歓声が上がっていました。